

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	韓日語における漢語の対照研究：「氷点」の翻訳資料を中心として
Author(s)	朴, 雄淳
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1991 : 49 - 55
Issue Date	1992-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039302
Right	
Relation	



3. 原作の漢語と翻訳の漢語との対照
 まず、「氷点」の漢語と翻訳の漢語を類型別に表で表してみると以下のようになる。

(表1)

分類基準	I 類型	II 類型	III 類型	計
異なり語数	1395	246	27	1668

表1で、顕著なのはI類型の占める比率が非常に高い点である。そして、II類型も少なくない点が見られる。

それでは、各々の類型別に見てみよう。

1) I 類型

「氷点」に出る漢語をそのまま使える場合をI類型として処理してみた。総異なり語数の約80%を占めるこの型は、表記と意味の用法でほぼ一致している。

李漢燮氏の「日韓同形の漢字表記語彙」¹⁾によれば、以下の表2で分るように、『日本語教育基本語彙七種比較対照表』に収録されている漢語2604語の中で94.08%が同形語であるとのことである。

(表2)

語種	語数	韓国語との同形語	同形語の冲意味が大体一致する語
漢語	2604語(42.88%)	2450語(94.08%)	2418語(98.69%)
和語	3056語(50.32%)	172語(5.63%)	166語(91.51%)
混種語	169語(2.77%)	14語(8.33%)	12語(85.71%)
外来語	245語(4.03%)		
計	6073語	2635語(43.39%)	2596語(98.52%)

さて、I類型の例をあげると次のようである。

例① ① 原作の漢語： 容疑者 捜査中 絞殺 留置場 罪悪感 逮捕
 ② 翻訳の漢語： 용의자 수사중 교살 유치장 죄악감 체포
 (容疑者) (捜査中) (絞殺) (留置場) (罪悪感) (逮捕)

① : 自殺 姿勢 長女 新聞 殺意 患者 期待 刑事 手術台
 ① : 자살 자세 장녀 신문 살의 환자 기대 형사 수술대
 (自殺) (姿勢) (長女) (新聞) (殺意) (患者) (期待) (刑事) (手術台)

① : 表情 一部 意識 院長 眼帯 哀願 犯人 写真 肋膜炎
 ① : 표정 일부 의식 원장 안대 애원 범인 사진 늑막염
 (表情) (一部) (意識) (院長) (眼帯) (哀願) (犯人) (写真) (肋膜炎)

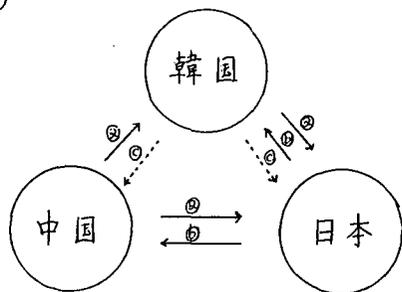
このように、日韓同形漢語が多数存在する背景は何であろうか。沼本克明氏は、「日本漢字音の歴史」の中でこう述べている。

中国漢魏の文化は二世紀末頃から交渉の有った楽浪郡を経て三

古和しがは、に
 上大着我で手
 国…定てまの
 中…にし前々
 頃。既に以人
 のた、郎期の
 これ、一古裔
 もさ程の推末
 音植過字もの
 字移の文とそ
 漢にそ記くが
 。島、書な及
 た半めの人
 れ鮮深人…化
 ら朝を化…帰
 えて涉帰。る
 伝、交波たす
)にと第一と
 韓(文化)が中
 辰文韓音とを
 ・が馬字こ済た
 韓音旧漢る百
 弁字(のれにあ
 ・の済魏と主で
 韓統百漢植ての
 馬系はた移全も
 (の庭にどる
 韓音朝て固殆な

っら国幅・韓にな国、言
 持か中大、特に韓と
 を国は・と、じらの
 係韓に立るり同かも
 関て語埋よおが固た
 なし漢・にて形中
 接その訳氏れ語の取
 密、語内變入の代を
 に韓国・漢け記時態
 い韓韓取李受表の形
 互ら、受、を字古の
 はから、葉漢は入
 固固が口合言、れ輸
 三申な入場のでこ逆
 のにし「のくの中、
 本かか、こ多のると、
 日確しば、ら語ある
 ・は、えるかたで見
 固語る例あ語ったら
 韓漢あ、が本入こ
 ・字うあな、かと経
 固字上が「後語³⁾」う
 中漢上が「後語³⁾」う
 昔。たれ場合支末日あ
 する。れれ場支末日あ
 に、あら、い、紀のて本
 うでえな物世半然日
 のたへて、織19前当
 こい日本自語は紀はか
 て日出親固20る韓え
 結局、I類、の
 が時、字、形、の
 漢語勿
 のる。
 自出
 出た
 日本
 と日
 漢語
 の定
 自出
 出た
 漢語
 の定
 自出
 出た

(図1)



- Ⓐ : 中国出自語
- Ⓑ : 日本出自語
- Ⓒ : 韓国出自語

図1で中国と日本との関係、自漢語を作って他国に送る役割をして
 り、なかつたおきたい。なせであろうか。こ
 の点、今残して幾つかの類型で分類ができる。その類型
 の基準となるのは、漢語をそのまま使用されている場合
 IA類型：日本語の漢語と同形があるが、翻訳では別の漢語を使用し
 IB類型：日本語の漢語と同形があるが、翻訳では非漢語(伝来の韓
 IC類型：日本語(漢語)を使用している場合
 である。前頁の例①がある。IA類型がI
 上記のIA類型の例として、前頁の例①がある。IA類型がI
 類型の中、占める比率は60%以上である。「氷炭」に出ている
 漢語のほとんどがそのまま使われている。

のめ今う。入る。多学語
 形占ら思輸言え上を漢
 同をかとの。見値語の
 韓が代る明る。数本語
 日80古あ文あ多。日国
 , 約はが術でがは, 韓
 とのれ係技け語合め, 鮮
 る数と開式わ自場合論, 明
 才語。な新る出いの勿いの表
 介りが接とい日本な語。易意味
 紹なの密程といし漢る。易
 を異ると過つと在式れ分は、
 果総出係成持語存本らははに
 結, が関形を自に日じ場合略
 たで果際。の性出語が慈場
 みい結。園似。国漢語くのた,
 てらな。の化類中。の漢し語
 しくう。国文の, 語の難漢さ
 化語よ三字高は。国%に式理
 型95の。国漢は。に韓17
 類13こ。韓る語語が約非日
 て約で。上漢漢語は。て非日
 いて。景本に。のの漢に。っ
 づし。背日播。国語の。」と
 基とな。・伝三。国語。点に。っ
 に。型ん。回。の, 韓本氷人持
 準類ど中籍ら, 日「国を, し
 基I。の。漢か。と, 韓性。て
 類は。る。で。等。る。方。い。る。
 分語。い。ま。字。程。え。一。な。す。
 漢。て。日。漢。過。か。く。習。と。な。す。思。

若干翻な。三。う。人。々。に。
 , 若のべ。調。・。ろ。人。
 が。・。調。・。ろ。人。々。に。
 た。氷。く。る。史。か。る。う。
 及び「詳で音は習う。
 て, て等。れ。学。あ。る。
 しは。い。史。才。を。で。
 析れ。つた。兼。用。語。あ。
 分。そ。に。っ。語。活。国。あ。
 に。語。か。の。分。両。が。
 な。た。出。し。漢。を。日。韓。義。
 自。摘。語。核。は。書。籍。の。
 , 指。国。分。場。合。連。ほ。研。
 ら。が。中。を。る。の。進。こ。
 が。中。を。る。の。進。こ。
 な。の。日。例。才。等。は。そ。
 し。次。た。を。書。め。た。
 を。て。実。れ。究。論。進。ま。
 業。し。い。さ。研。究。進。ま。
 作。と。な。化。な。の。究。う。
 化。題。は。ど。う。学。研。思。
 型。課。で。一。よ。文。る。と。
 類。は。類。力。の。訳。け。る。
 , 一。種。こ。翻。お。え。
 に。ま。一。点。こ。翻。お。え。
 り。題。が。た。後。史。語。を。
 終。問。本。っ。今。歴。日。益。
 の。訳。か。の。韓。利。

* 注

- 1) 李明漢書院「日韓同形の漢字表記語彙」(『日本語学』8月号, 1984, P.104)
- 2) 沼本克明「日本漢字音の歴史」(昭和61年, 東京堂出版)PP.88-89
- 3) 注1)と同じ P.110

* 参考文献

1. 田中章夫『国語学概説』(昭和五三年・明治書院)
2. 沼本克明『国語学概説』(昭和六一年・東京堂出版)
3. 三浦綾子『氷点』(昭和五七年・角川書店)
4. 三浦綾子著『氷点』(1988・汎友社)
5. EUNG EN A. NIDA 著・成瀬武史訳『翻訳学序説』(昭和四七年・関文社)
6. 李漢燮『国語学概説』(1989・韓信出版社)
7. 李明漢書院「日韓同形の漢字表記語彙」『日本語学』8月号(1984)
8. ソウル大学校語学研究所『韓日語対照分析』(1988・明志出版社)